

**第2回
清水都心ウォーターフロント
活性化検討委員会**

資料

平成24年12月18日(火)

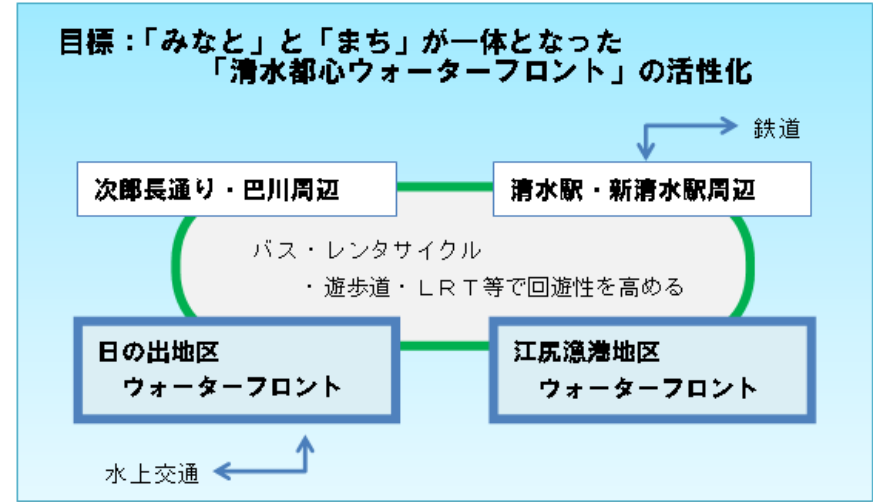
静岡市

目 次

1. 第1回検討会のおさらい 2
1.1 調査のねらい	
1.2 検討目的	
1.3 清水都心WFで目指す「にぎわい」の種類	
1.4 検討の対象とする期間・内容のイメージ	
2. 清水都心WFのにぎわい拠点と必要な対応 6
2.1 目指していく「にぎわい拠点」とそのネットワーク	
2.2 各拠点ごとのにぎわいのコンセプトやイメージ	
①江尻漁港 ②清水港線跡自歩道 ③砂浜	
④船溜り周辺 ⑤イベント広場や背後緑地 ⑥日の出ふ頭	
3. WF活性化にあわせて取り組む課題17
(1)防災・安全の確立 (2)交通・アクセスの充実	
4. WF活性化を推進するエリアマネジメント(地域関係者の連携)体制の必要性19

1.1 調査のねらい

- 「清水港周辺での物流機能の立地再編」や「豊かなライフスタイル・地域観光への関心の高まり」などの社会環境変化をふまえ、「まち」と「みなと」が一体となった清水都心ウォーターフロントの形成を目指す。



1.2 検討目的

「みなと」「まち」が一体となった活性化

- 活性化に取り組む中心市街地と、将来、物流・産業機能の立地再編が想定される港湾エリアとで、「**両者の近接性**」や「**点在するみなとまちの地域資源（歴史や産業を表す施設等）**」を活かした**賑わい創出による地域活性化**を目指す

地区・分野間の連携による厚みのある魅力づくり

- **中心市街地および港湾周辺の一體的な活性化**には、エリア内の水辺地区、商店街、公共施設、観光資源等の**多様な地区を連携**させていくことが必要
- 活性化を実行する主体についても、港湾関係企業をはじめとして、商業・観光・交通事業者、客船誘致委員会や商工会議所等の経済団体、地区関係住民、市民団体、行政関係機関等がそれぞれの**立場・役割で活動していく**ことが重要

官民連携により時機を得た実現化

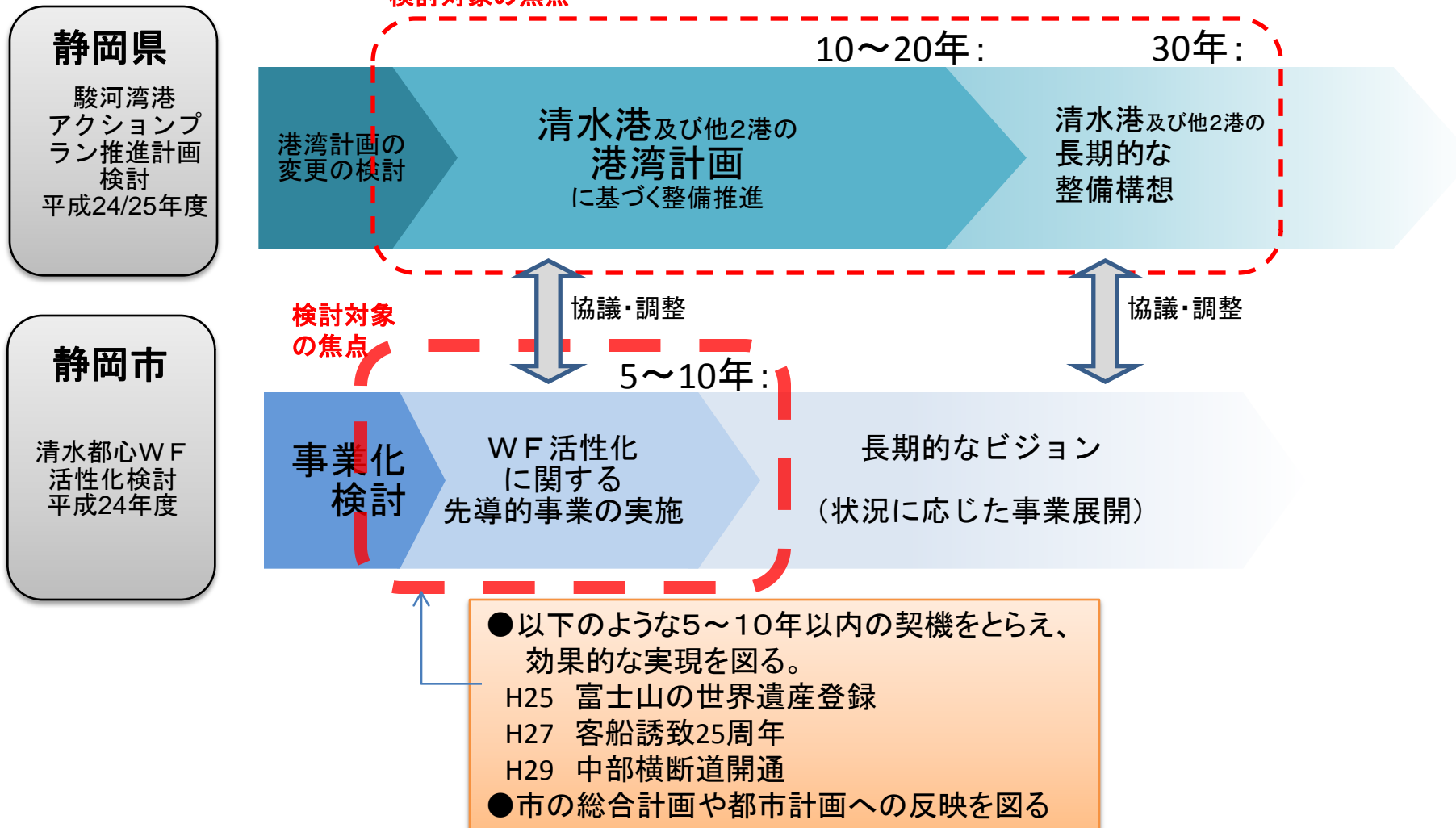
- 現行港湾計画においても、物流機能の集約・再編による親水空間の創出等について方向性が示されている
- 今後、賑わい創出を進めるに当たっては、**行政側**で主体的に対応する法制度、公共基盤等の課題と、**民間側**で主体的に対応する土地利用やソフトの取り組みが、機を逸することなくタイミング良く展開されるよう、**連携して検討・推進**していくことが必要

1.3 清水都心WFで目指す「にぎわい」の種類

清水都心ウォーターフロント（江尻・日の出地区）における「にぎわい（人を集める魅力・機会）」は、対象として、「地元」から「広域」まで様々なものがある。また、日常的なものから、頻度は低くともインパクトのあるイベントなどまで、多様であり、それぞれの特性をふまえて伸ばしていくことが重要。



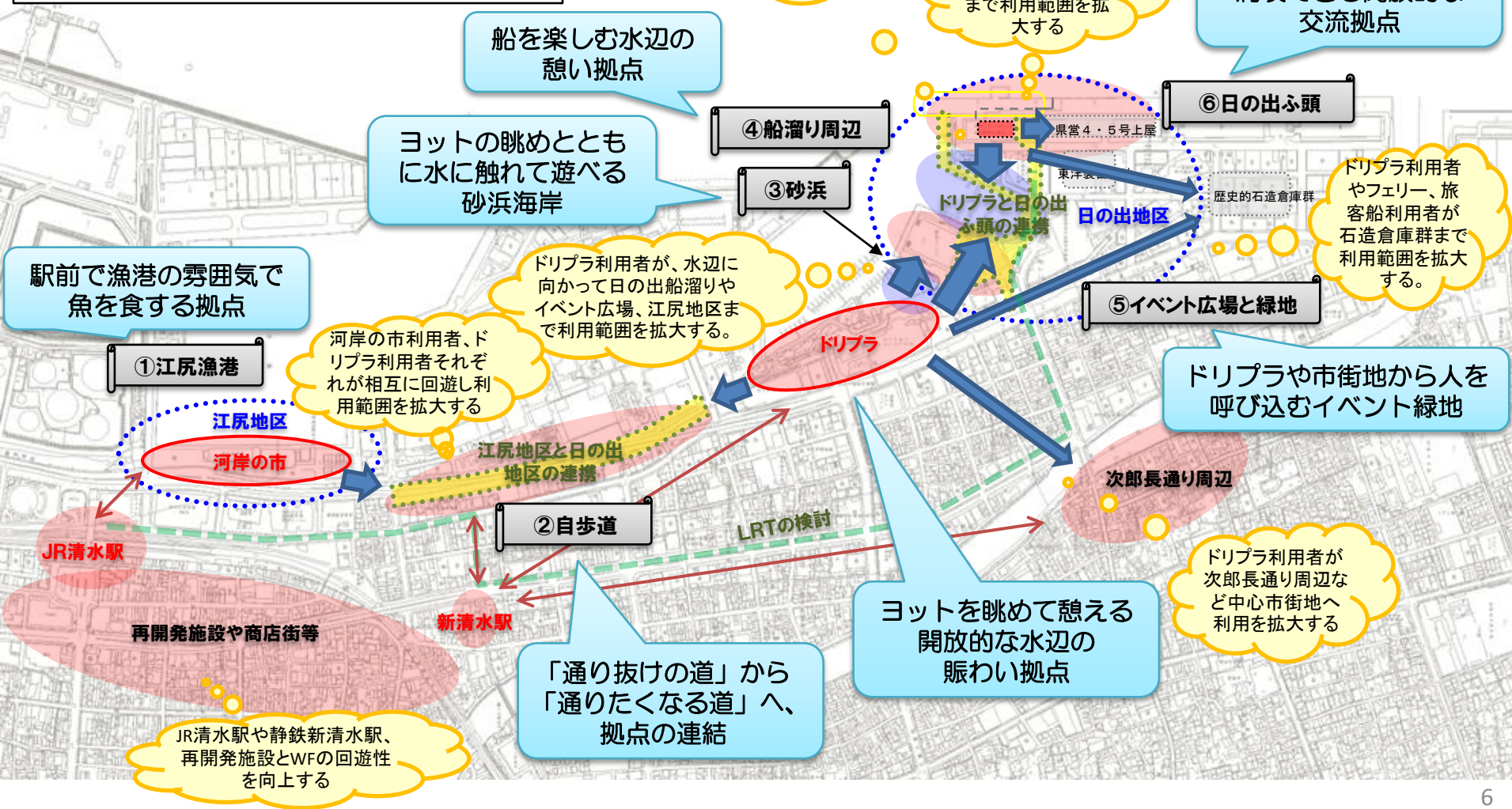
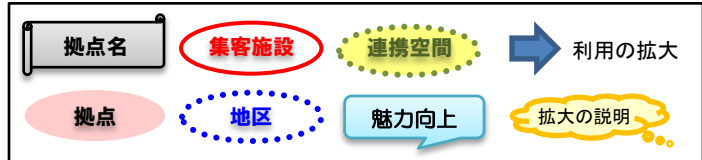
1.4 検討の対象とする期間・内容のイメージ



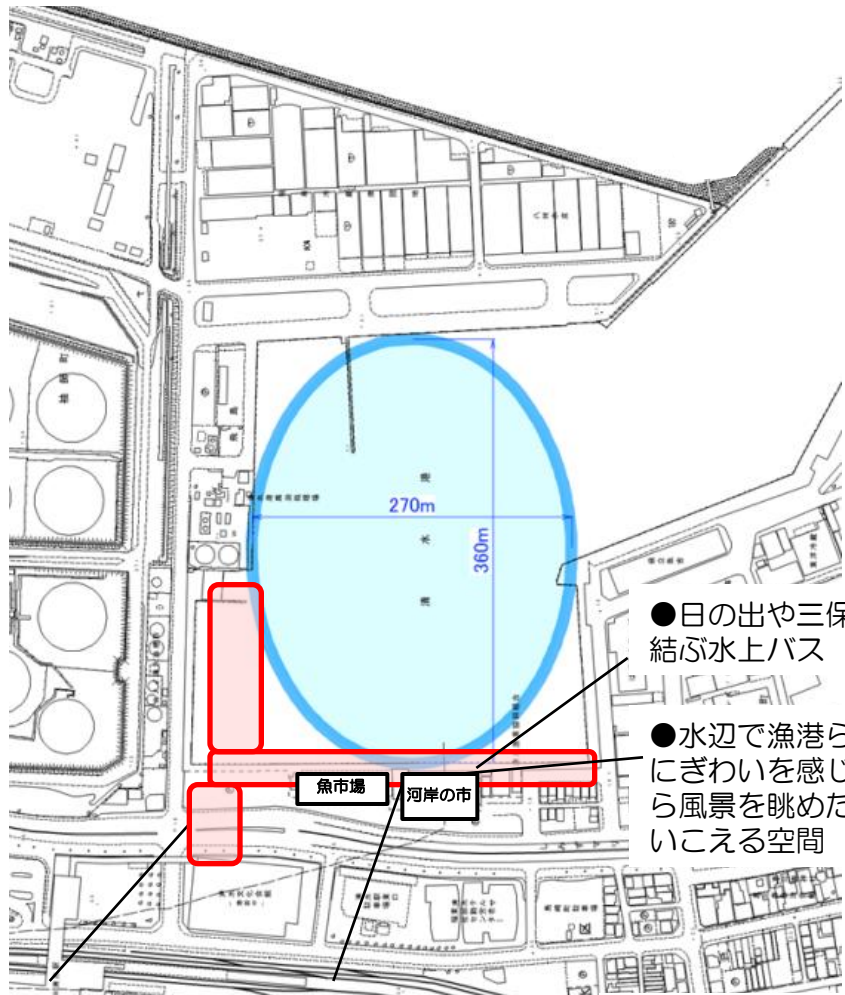
事業の実現には、上記のような港湾管理者・港湾所在都市の取組に加え、関係企業等の民間主体との機をとらえた調整・協力が重要である。

2.1 目指していく「にぎわい拠点」とそのネットワーク

2. 清水都心WFの賑わい拠点と必要な対応



①江尻漁港 ～駅前で漁港の雰囲気を感じながら魚を食べる拠点～

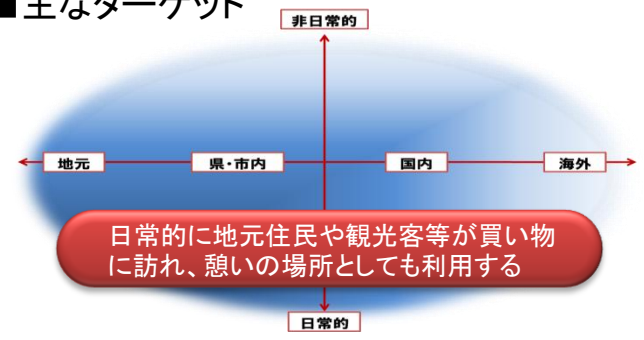


- 日の出や三保とを結ぶ水上バス
- 水辺で漁港らしいにぎわいを感じながら風景を眺めたり、いこえる空間

- 駅から水面や漁港が見通せて海側に行きたくなる空間演出
- せりの見学や、新鮮な魚食など、幅広く魚を楽しめる拠点
- 周辺の文化・公共施設や商店街との連携取組
- 日の出方面との連携取組



■主なターゲット



魚を生け簀に入れる所を見学する観光客。魚を生け簀に入れる作業などを観光のパフォーマンスとして活用。駅と海側をデッキでつないだ場合、海側に高さのある建物を配すると海側の眺望を阻害するため、出来るだけボリュームの大きな建物は配置しない。



建物の表を海側に向け、前面を磯焼や直売所として使用。磯焼している人々の様子がにぎわいを演出。

※江尻漁港周辺の将来像に関する検討課題の状況

江尻漁港周辺は、漁業関連産業の操業環境と河岸の市等の集客施設の共存を図ると共に、駅との接続、埋立による緑地整備、水上交通の配置など、様々な検討課題がある。

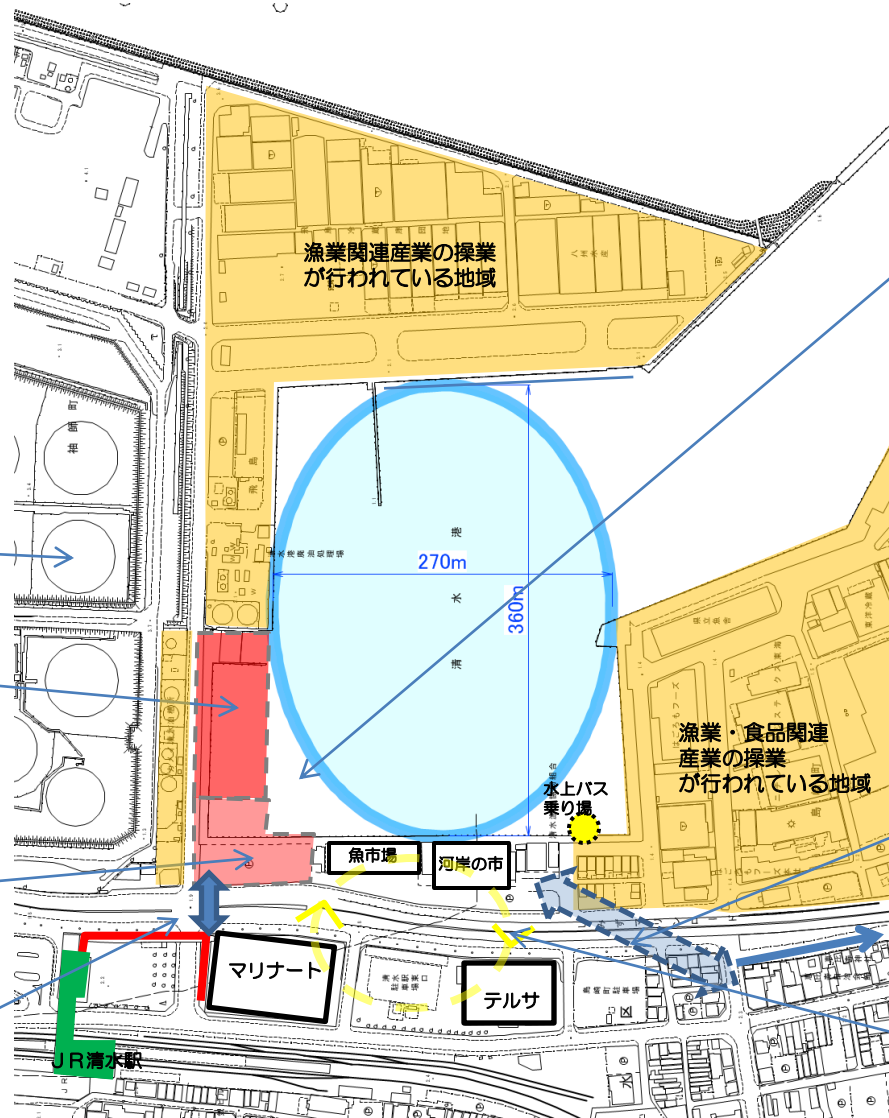
個々の事業を推進するためにも、これらを調整し、全体の方針をまとめておくことが重要である。

将来的な土地利用転換も想定される民間油槽所

港湾計画では、「緑地」となっており、埋立てや整備・活用方法の具体策検討が必要

港湾計画では、「交流厚生用地」となっている。
交流拠点や津波避難機能を備えた駐車場整備が期待されている。

駅からの歩行者デッキを漁港側へつなぐことが期待されている。



駅からの利便性が高い場所に、海上交通拠点(水上バス等)を集めることが期待されている。

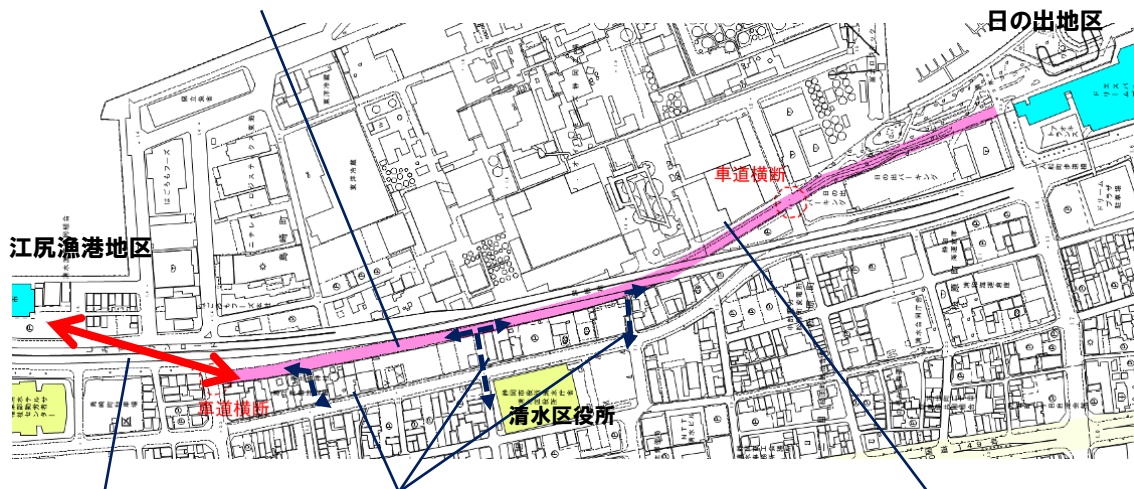
河岸の市から遊歩道・日の出方面への歩行者動線の検討(観光と産業環境の隣接地区での安全面でのすみ分け)

清水駅東側での、集客施設、公共施設間の連携が期待されている。

②清水港線跡自転車歩行者道

～「通り抜けの道」から「通りたくなる道」へ、拠点の連結～

- 緑化や休憩場所、イベント空間が充実した道路
(管理・運営に、市民や企業が参画)
- 自歩道側を向いた建物・土地利用(カフェ・店舗など)



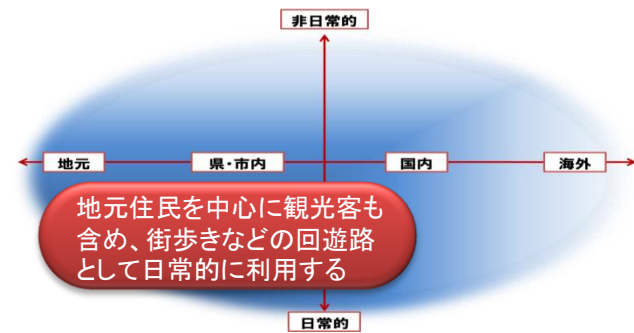
●車両も歩行者も自転車も安全に通ることができる交通動線

●江尻一日の出間だけでなく、街中とも往来できる路地

●工場の産業景観



■主なターゲット



清水港自歩道の現状



米国ニューヨーク ハイライン公園



広島港京橋川

沿道にカフェや店舗が立地した場合、複数の店舗の軒先空間を活用してオープンカフェにして、にぎわいを演出する。

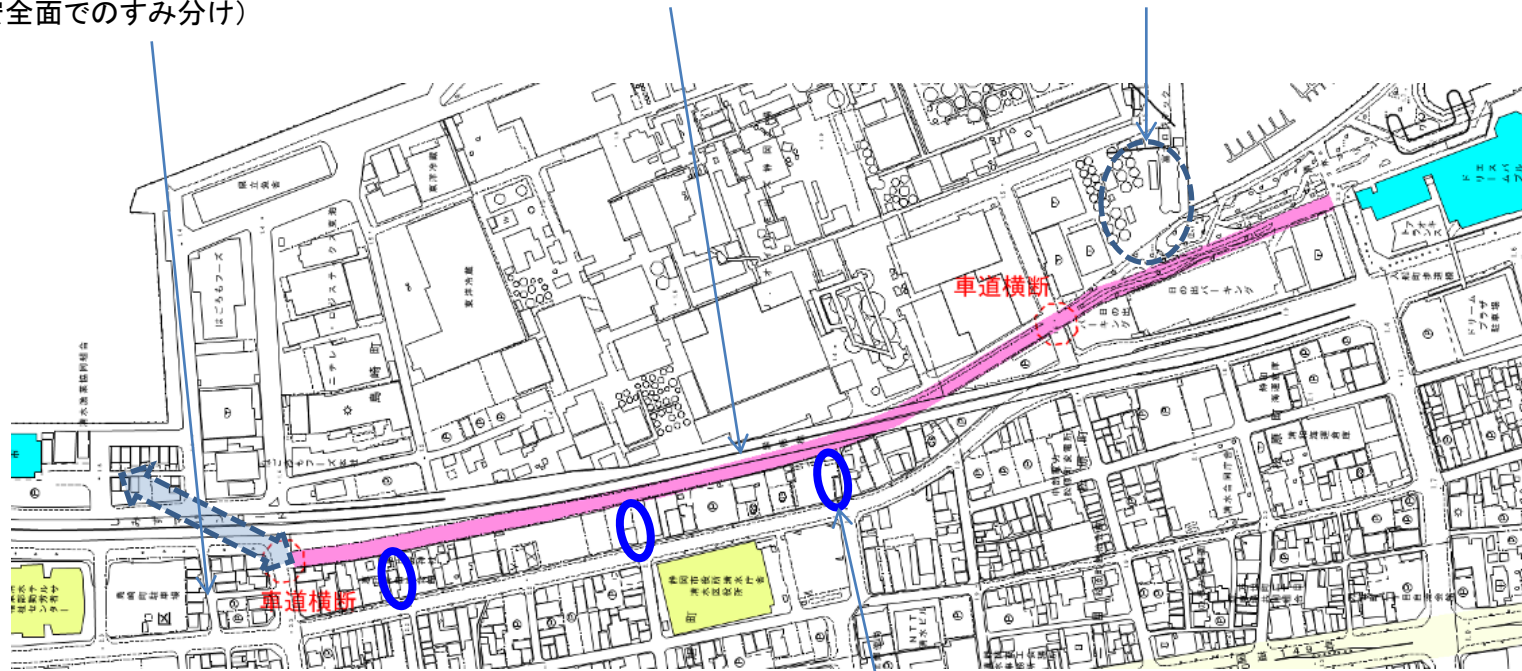
※清水港線跡自歩道の魅力向上に関する検討課題の状況

自歩道は、江尻地区と日の出地区をつなぐ、歩車と自転車専用のルートであるが、江尻側の接続、市街地側との接続、植栽や休憩スポットの不足など、様々な検討課題がある。

河岸の市から遊歩道・日の出方面への歩行者動線の検討
(観光と産業環境の隣接地区での安全面でのすみ分け)

緑陰や休憩施設など休んだり以降場が不足しているため、ただ通過する空間となっている。

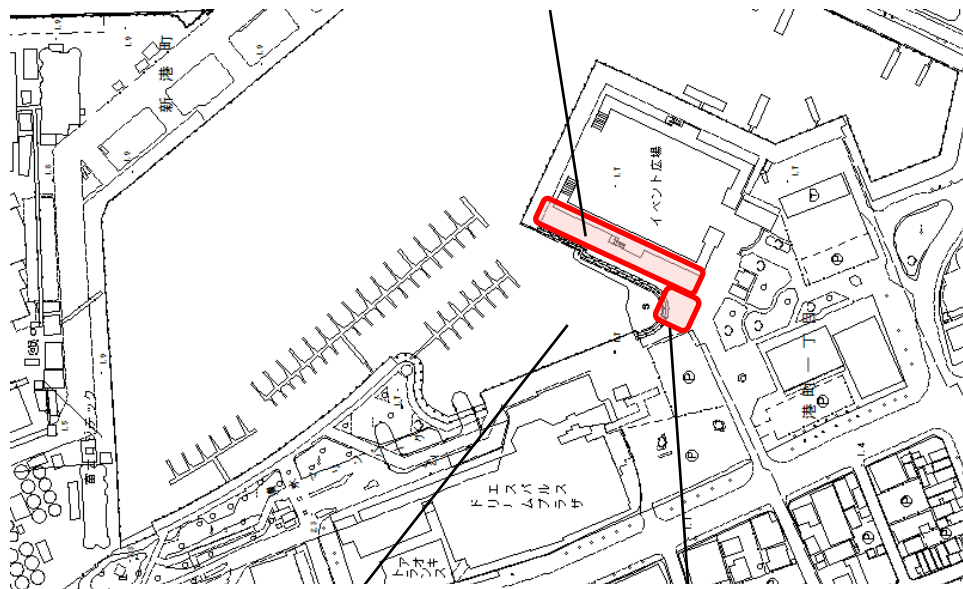
自歩道から緑地を介する水面の眺望の確保検討
(工場サイロの解体により見通しが改善されたが今後の動向については確認が必要)



市街地側に抜道が1カ所しかなく、しかもわかりにくいいため、沿道の公共用地や神社境内等を活用し、複数の通り抜け路地の創出を検討する。

③砂浜 ～ヨットの眺めとともに水に触れて遊べる砂浜海岸～

●砂浜やドリプラ側のにぎわいを眺められる水辺の休憩空間

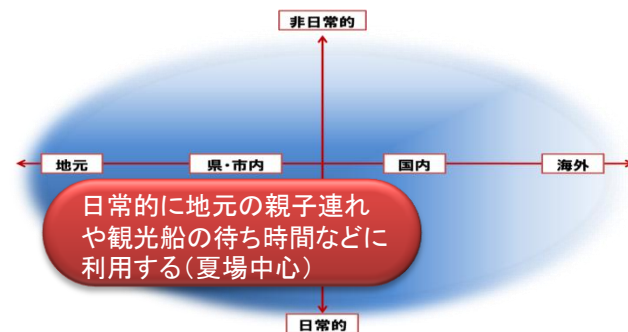


●小型のボート体験などに積極的に使われる水面

●人が集まる砂浜周辺でのにぎわいスポット



■主なターゲット



清水港

現在と同様に、砂浜は子供達が安全に楽しく水に触れて遊べる親水空間としてさらに利用を図る。

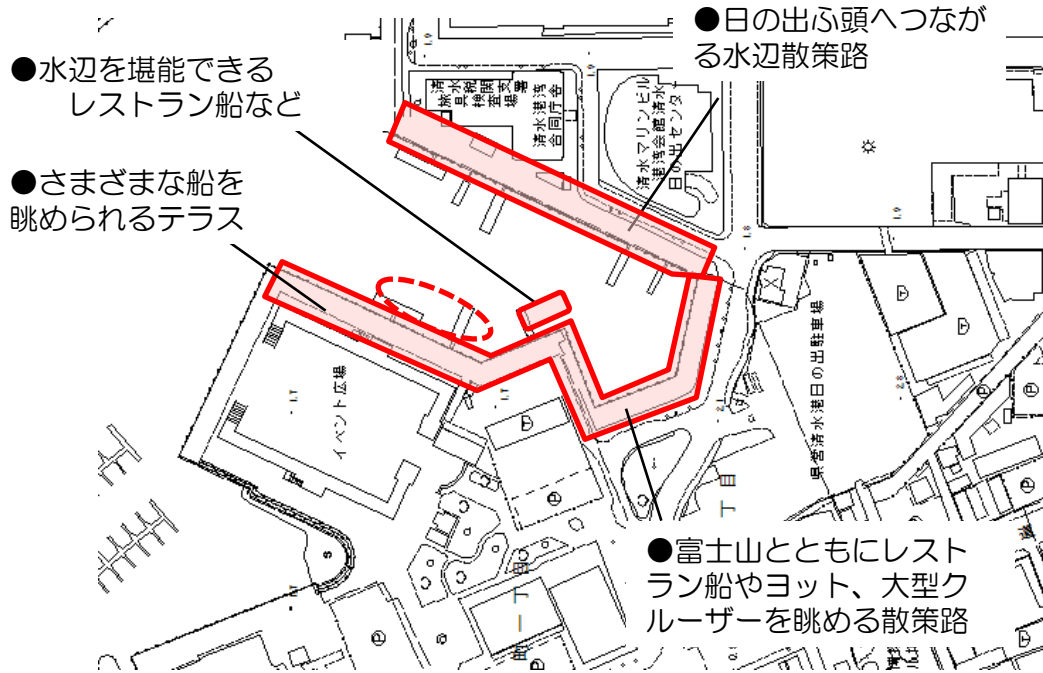


砂浜周辺に仮設的にパラソルやベンチを配し、ケータリングカーを誘致し、母親等が水遊びする子供達を眺めたり、休憩する空間として利用できる。

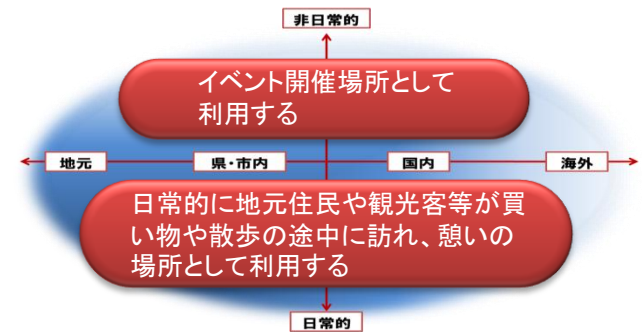


門司港レトロ

④船溜り周辺 ～船を楽しむ水辺の憩い拠点～



■主なターゲット



横浜港象の鼻公園



清水港



東京港芝浦運河

いろいろな種類の船舶の係留により、船舶の利用者や景色を眺める人などで賑わう空間を演出する。

船溜りのまわりの物揚場は、幅が15m前後と広いので、テントなどを張ってイベントに利用したり、パラソルやベンチを設置し日常的な休憩場所、憩いの場として利用できる。上記はイベント実施時のイメージ。

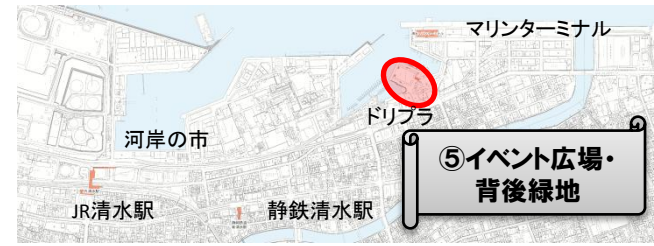
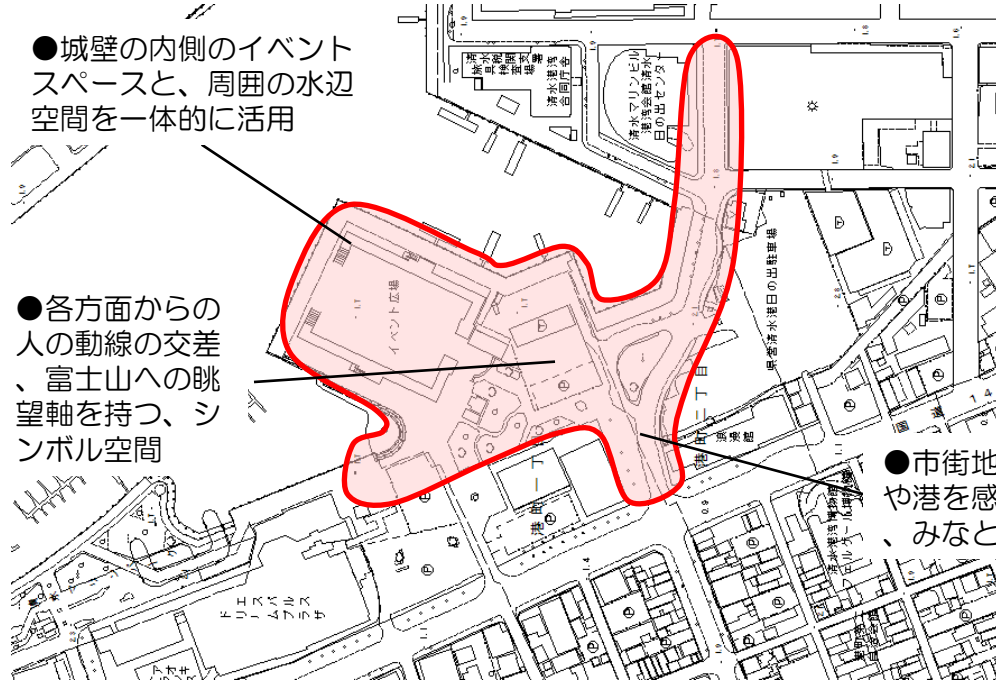
⑤ イベント広場や背後緑地

～ドリプラや市街地から人々を呼び込むイベント緑地～

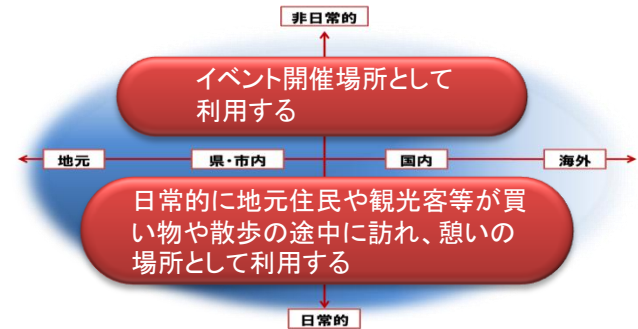
●城壁の内側のイベントスペースと、周囲の水辺空間を一体的に活用

●各方面からの人の動線の交差、富士山への眺望軸を持つ、シンボル空間

●市街地からも海や港を感じさせる、みなとの玄関口



■ 主なターゲット



横浜港象の鼻公園

海側に開けた伸びやかな緑地は、イベント広場として利用する。列状に石が配され、海側を舞台としたイベント時にベンチとして利用出来る。



横浜港象の鼻公園

ドリプラや中心市街地から軸線を強調するよう配置した植栽やベンチ。人々が散歩中に休んだり談笑したりすることが出来る。



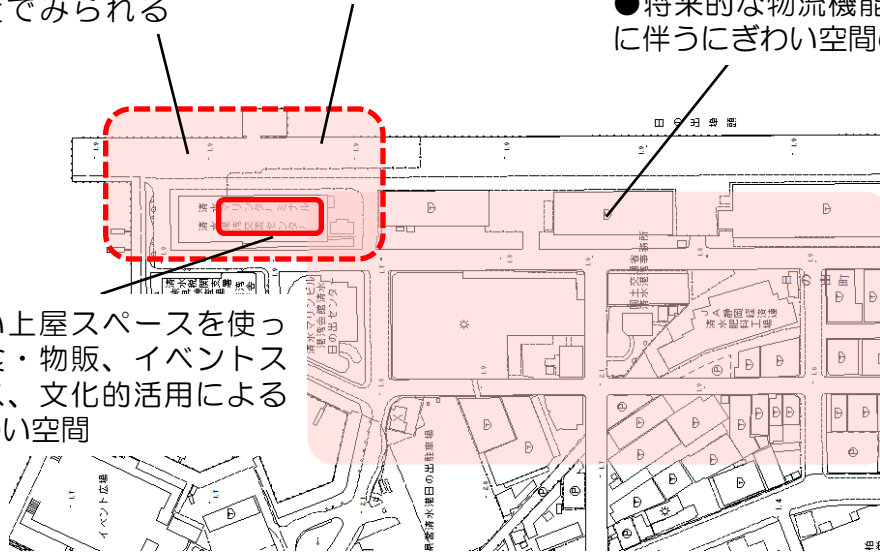
横浜港象の鼻公園

カフェとして利用される建物の屋上は緑化し、展望緑地として、イベントを観覧したり休憩したりと利用することが出来る。

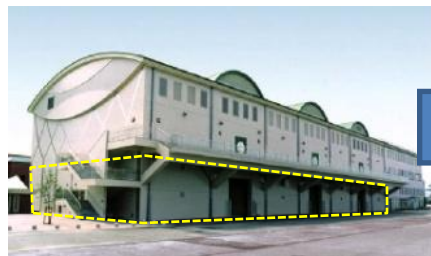
⑥日の出の頭

～大型客船や富士山を満喫できる開放的な交流拠点～

- 客船や帆船を楽しむ空間
- フェリー（県道223号線）の発着を真近でみられる空間
- SOLASの開放
- 富士山の眺望がよい空間
- 隣接する物流作業や船舶も観光資源に
- 将来的な物流機能完全移転に伴うにぎわい空間の拡大



- 広い上屋スペースを使った飲食・物販、イベントスペース、文化的活用によるにぎわい空間



清水港6号上屋

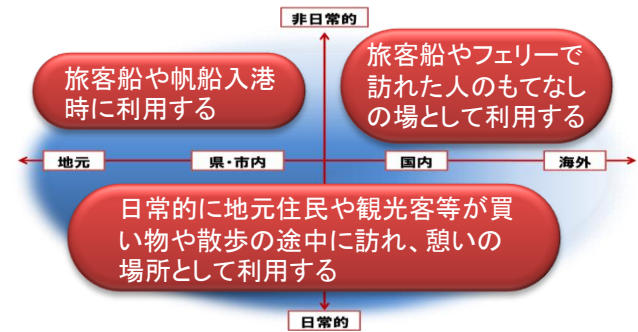


神戸港モザイク

6号上屋の1階南半分は物流機能を将来的に廃止し、例えば、文化活動拠点などとして利活用する。
また、前面のエプロン部分は40mほどあるため、客船入港時やその他イベント自などにイベント会場として利用する。



■主なターゲット



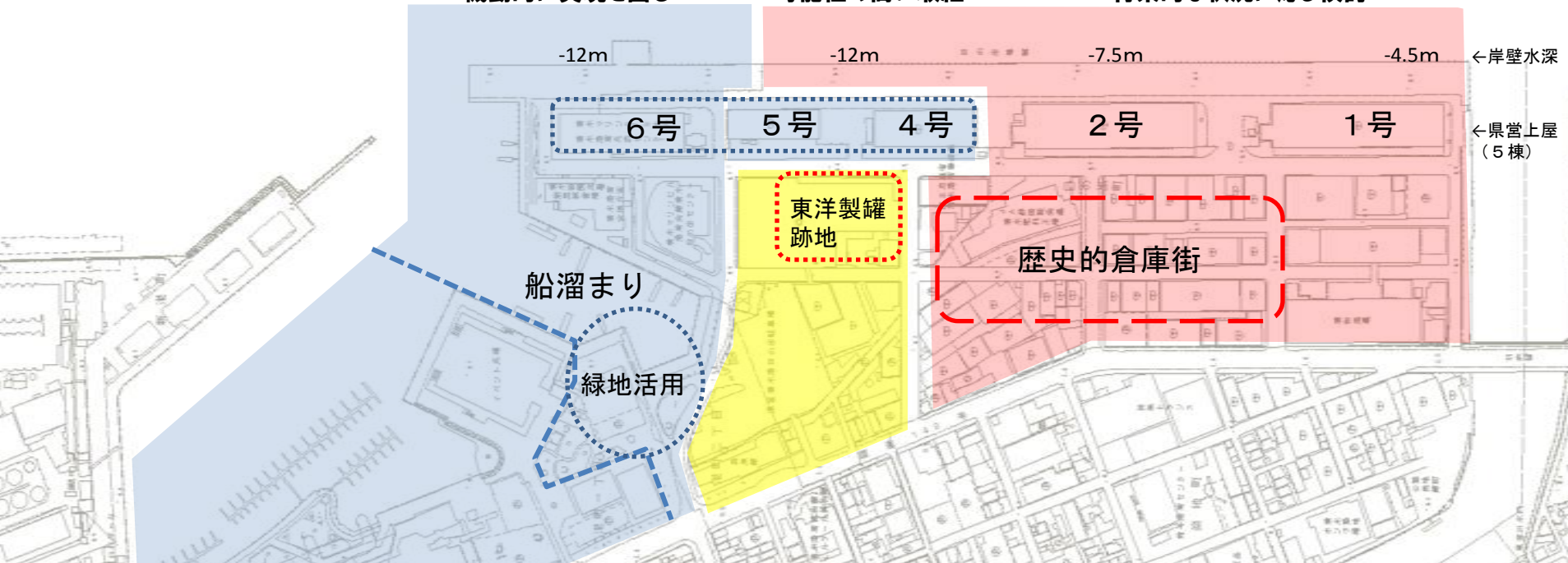
神戸港モザイク

※日の出地区での**にぎわいづくりの段階的な展開**イメージ

第1段階(短期)
関係者の調整により
機動的に実現を図る

第2段階(中期)
第1段階に続く
可能性の高い取組

第3段階(長期)
当面、現状維持だが
将来的な状況に応じ検討

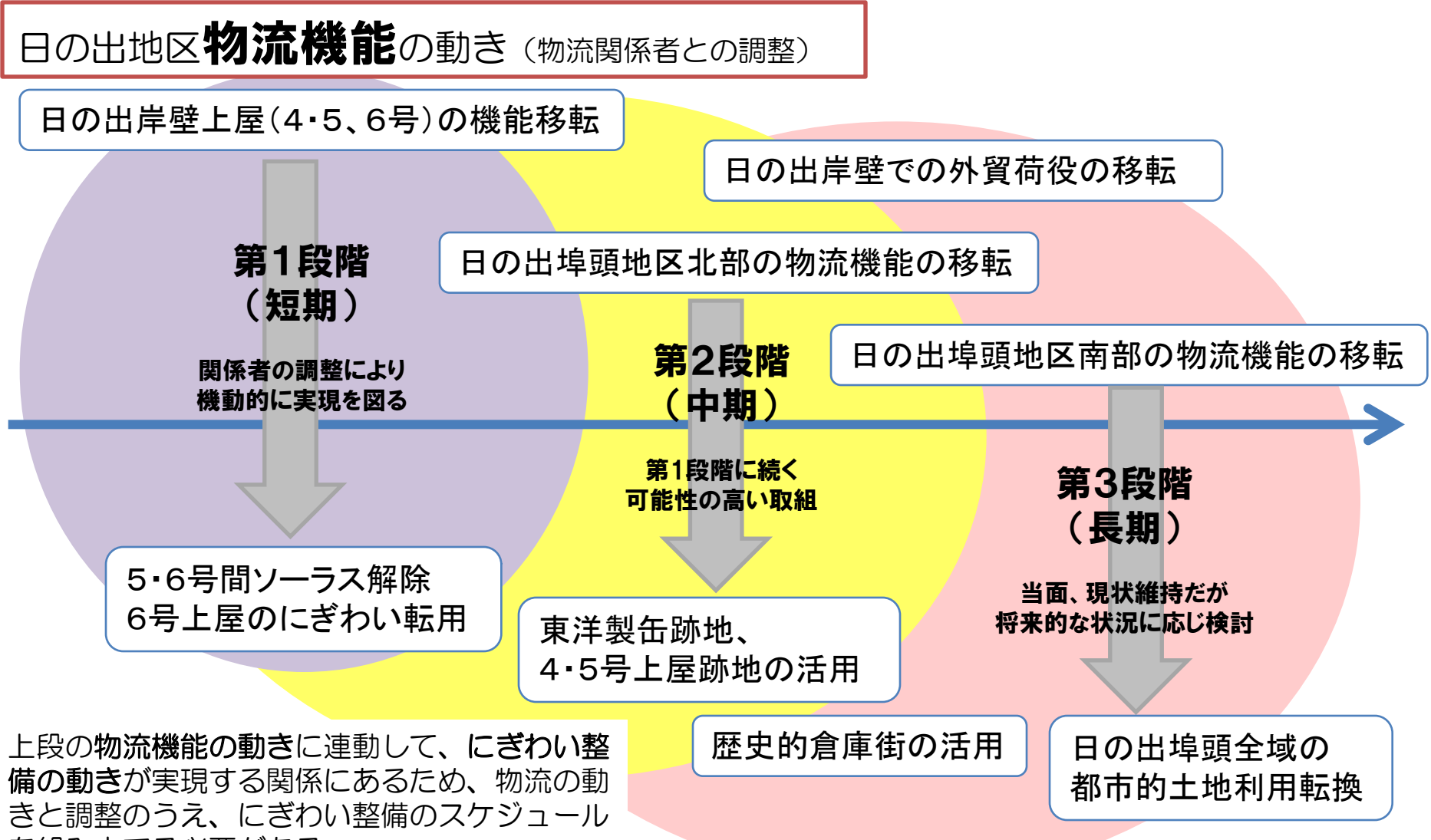


- 第1段階**
- ◆ 4・5・6号上屋の他地区への機能移転
 - ◆ 5・6号間のソーラス解除と6号上屋のにぎわい転用
 - ◆ ドリプラ～日の出の頭間の緑地の活用

- 第2段階**
- ◆ 4・5号上屋跡地のにぎわい転用
 - ◆ 東洋製罐跡地やマリソパーク等による交通機能再配置、にぎわい活用

- 第3段階**
- ◆ 外貿機能の新興津への移転と物流機能の移転による都市的土地利用転換
 - ◆ 歴史的倉庫街の活用

※日の出地区での「物流機能の動き」と「にぎわい整備の動き」の関係



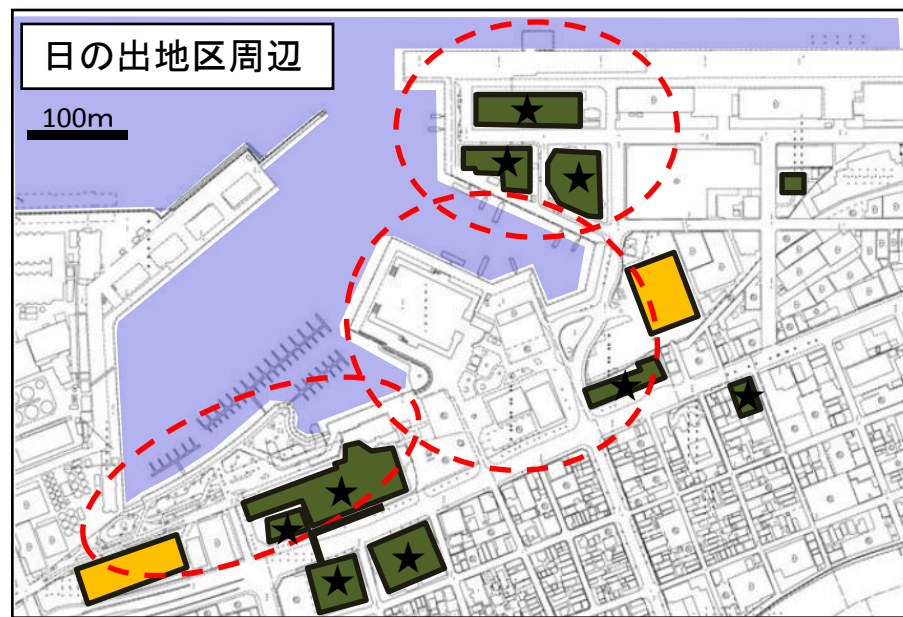
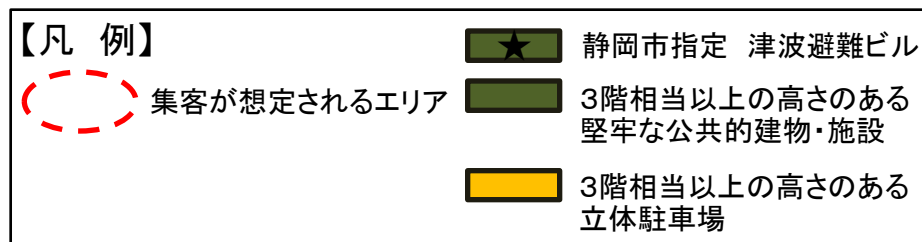
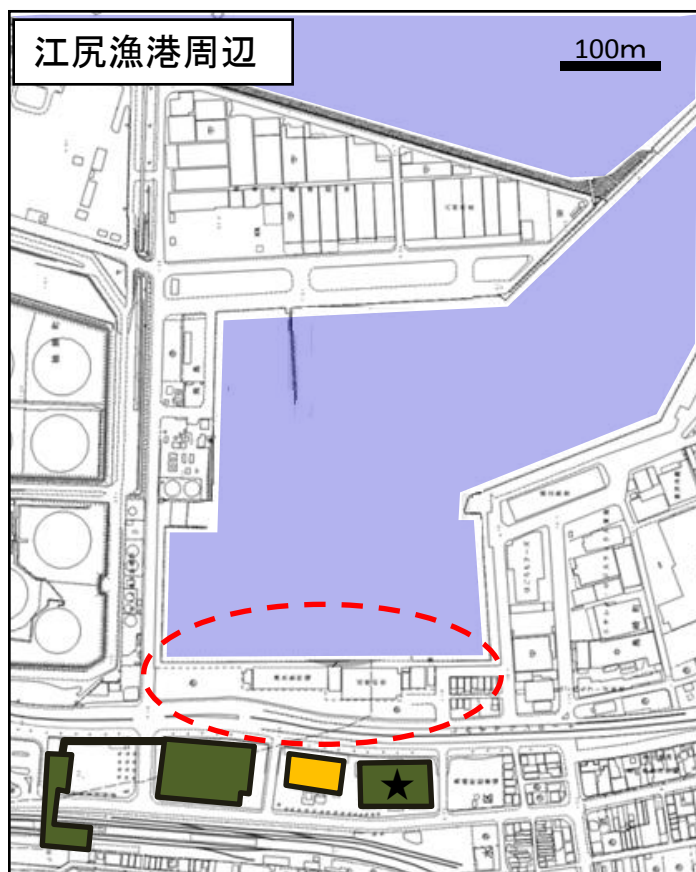
上段の物流機能の動きに連動して、にぎわい整備の動きが実現する関係にあるため、物流の動きと調整のうえ、にぎわい整備のスケジュールを組み立てる必要がある。

日の出地区にぎわい整備の動き (官民関係者で実現を推進)

3. WF活性化にあたり合わせて取り組む課題

(1) 防災・安全の確立

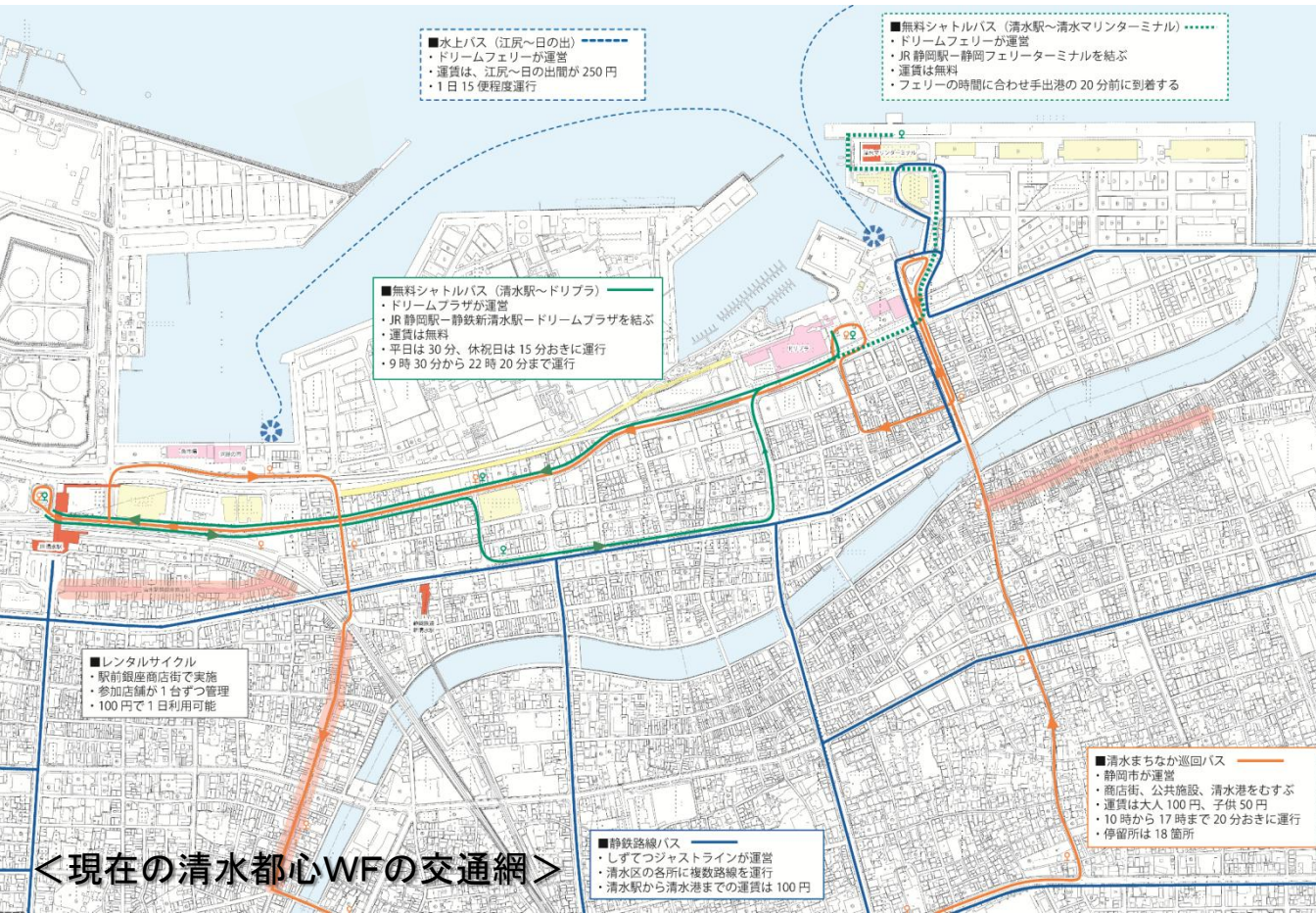
- 江尻漁港周辺、日の出地区周辺のウォーターフロントにおいて「にぎわい」を高めるうえでは、現在懸念されている津波災害への対応方針を検討し、事業者・利用者・訪問者の安全・安心を高めしていくことが不可欠と言える。
- 災害想定等の情報、県・市等の防災関連計画との整合を図りつつ、安全な避難先の確保や流失物対策、復旧・復興方法等を検討していくことが望ましい。



3. WF活性化にあたり合わせて取り組む課題

(2) 交通・アクセスの充実

- 交通・アクセスの不便については、来訪者アンケートや事業者へのヒアリング等様々に指摘されている。
- 徒歩等の回遊アクセスについては、自転車歩行者道や日の出緑地の整備に加え、楽しく歩けるようなソフトの施策、レンタサイクル等により総合的に対応を検討する。
- 公共交通に関しては、既存の交通手段、ルートを踏まえながら、水上バスやLRT等各種交通機関の新たな導入について、主体となる事業者を含め検討する。



プレジャーボートによる水上タクシーの例
(広島市太田川)



バス停LRTの駅が一体化した例
(富山市富岩運河)

4. WF活性化を推進する エリアマネジメント(地域関係者の連携)体制の必要性

(1) 清水都心WF活性化におけるエリアマネジメント体制の必要性

- 清水都心部では、中心市街地、港(ウォーターフロント)、巴川周辺など、広い範囲に様々な関係主体が活性化の取組を行っている。
- これらを個別ではなく、全体で連携して来訪者へ提供することができれば、来訪先としての「清水都心WFエリア」の魅力・価値を高めることができる。

エリアマネジメント体制
があることで実現しやすくなる
取組の例

清水都心(市街地+ウォーターフロント周辺)に関わる
市民・企業・団体・行政等
の関係主体どうしの意見交換、連携

集客拠点をつなぐ公共空間
(広場、水辺、遊歩道等)の
有効活用や維持管理

清水都心(市街地+ウォーターフロント周辺)で点在する
観光資源、イベント等の
一体的な情報発信、イベント間連携

地域の中で埋もれた魅力
(観光コンテンツ)の発掘などの取組

交通サービス(公共交通、レンタサイクル、駐車場等)と
集客拠点の連携(企画乗車券、割引サービスなど)

大規模な(面的な)土地利用
転換、整備開発を行う際の、
関係者間の協力体制づくり

エリアの愛称・コンセプトの制定・普及
例: 門司港レトロ、みなとみらい、など



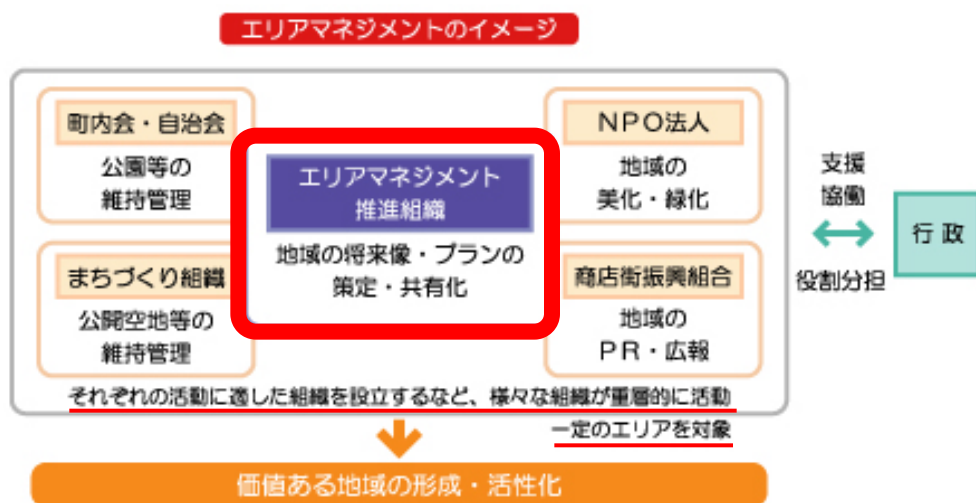
4. WF活性化を推進する

エリアマネジメント(地域関係者の連携)体制の必要性

(2) 清水都心において考えられるエリアマネジメント組織の構成

- エリアマネジメントは、行政主導ではなく、住民・事業種・地権者等の地域の担い手の主体的な取組が重要となっている例が多い。
- 行政は、これらの活動をサポートする立場として、地域の取組に対して、様々な支援・協力に努めていく。

一般的なエリアマネジメントの体制



個々の取組が既にある場合は、既存の組織をつなぐ、「エリアマネジメント推進組織」を新設して、全体の体制をつくることが多い。

清水で連携・協力が考えられる主体

- 中心市街地関係者
(商工会議所、経済団体等)
 - 港湾・物流関係者
 - 工業等関係者
 - 漁業関係者
 - 観光・客船誘致関係者
 - 交通事業関係者(陸・海)
 - 市民活動組織
 - 自治会、商店街組織等
 - 地域づくりに関する大学等
 - その他
-
- 行政(国・県・市等)